

宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和7年度・第6回）議事概要

日時 令和7年（2025年）10月8日（水） 14:00～16:00

場所 宝塚市役所第二庁舎1階 会議室A・B

出席者

<まちづくり協議会>

まちづくり協議会名	参加者名・役職	参加方法	
		対面	オンライン
仁川まちづくり協議会	井手 義明会長	●	△
宝塚市高司小学校区まちづくり協議会	川島 昭会長	●	△
宝塚市良元地区まちづくり協議会	平田 武二会長	●	△
宝塚市光明地域まちづくり協議会	小林 敏明会長	●	△
宝塚市未成小学校地域まちづくり協議会	加藤 富三会長	●	△
宝塚市西山まちづくり協議会	久保田 洋一会長	●	△
まちづくり協議会コミュニティ末広	溝本 直人代表	●	△
宝塚第一小学校区まちづくり協議会	山本 敏晴会長	●	△
逆瀬台小学校区まちづくり協議会	石谷 清明会長	●	△
宝塚市すみれガ丘小学校区まちづくり協議会	島津 早苗代表	●	△
宝塚小学校区まちづくり協議会	喜多 育会長	●	△
壳布小学校区まちづくり協議会	岡田 英里副会長	●	△
小浜小学校区まちづくり協議会	藤本 真砂子会長	●	△
宝塚市美座地域まちづくり協議会	糸瀬 豊光代表	●	△
安倉地区まちづくり協議会	岡本 康夫会長	●	△
宝塚市長尾地区まちづくり協議会	阪上 良彦会長	●	△
中山台コミュニティ	松下 義弘会長	●	△
宝塚市山本山手地区まちづくり協議会	奥野 廣明政策室長	●	△
宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会	前田 幸夫会長	●	△
宝塚市西谷地区まちづくり協議会	二井 久和会長	●	△

<その他>

市長

総務部経営改革担当部長 政処部長、総務部経営改革担当次長 田外次長

業務改革推進課 吉川係長、岡田係長

企画経営部長 藤本部長

広報課 夏梅課長、久家係長、上杉職員

スポーツ振興課 赤松課長、大野係長、竹辺係長

市民協働推進課 田巻課長、久住係長、押川職員他

宝塚市社会福祉協議会 地区担当支援課 太田係長

宝塚NPOセンター 平岩氏

傍聴者 1名

議事概要

1. 行財政改革について（市長・総務部経営改革担当・広報課）（90分）

（1）令和7年中に方向性を出すことを検討している事業について

市長より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

- ア 市民協働推進課に伺いたい。私たちもまちづくり協議会の定例会等でこの内容を話すが、まちづくり協議会の会議の構成員は高齢の方が多く、十数人の会議体になる。そこで意見を聞いても、住民全体の意見にはならないし、意見はそれぞれ違うと思う。意見のまとめ方、取り方についてどのように考えているのか。
- イ （市民協働推進課）各地域やまちづくり協議会で会議の構成の違いや意見に偏りがあると思う。11月に対話ひろばがあつたり、様々な方法でいろんな角度から意見を募っていく。そのため、その点はあまり気にせずにまちづくり協議会で出てきた意見を市民協働推進課または業務改革担当課に提出いただけたらよい。
- ウ （市長）10月中は関係団体との対話ということで、各事業の当事者の皆さんと話をしている。例えば、広報板については皆さんがまさに当事者だと思う。今回、高齢者バス・タクシー運賃助成のことを入れたのは、まちづくり協議会の活動メンバーの中には高齢者が多くおられるため、お話をさせていただいた。まずは関係の深い方から意見を伺い、その上で、11月の対話ひろばでは広く市民から意見を聞くというプロセスで意見を収集したい。
- エ 青少年育成市民会議の見直しについて、廃止する方向なのは構わないが、愛護委員、補導委員などまちづくり協議会に入っているのと、実際に学校のコミュニティスクールとでは別の観点で動いていると思う。本来ならコミュニティスクールというのは、家庭、学校、地域の三者一体で子どもたちをどう育てていくか考えていくものであるが、今の宝塚市のコミュニティスクールは文部科学省が出しているような形になっていないと思う。もう一つは、PTA やたからづか学校応援団について、地域によってしっかりとやっているところとそうでないところがある。子どもたちを取り巻く環境に関して、今一度きっちと整理して、横の連携を取れるようにしないと、単に青少年育成市民会議がなくなるだけで終わってしまうのではないかと思う。
- オ （市長）ご指摘のとおりだと思う。青少年育成市民会議を廃止することを1つのきっかけにして、コミュニティスクールの在り方等を教育委員会と相談しながら、どういう機能であるべきなのかを含め、地域ごとに特性はあるが、いい形になるように進めていきたい。
- カ 青少年育成市民会議がどのような仕組みであるのかは各まちづくり協議会で違うと思う。まちづくり協議会の中でやっているところもあるし、別の仕組みのまちづくり協議会もあると思う。当事者に話したいということは、市長は各まちづくり協議会に説明しに行くということか。
- キ （市長）各まちづくり協議会に話しに行くということではなく、代表者の方に意見を伺いたく今日お話をさせていただいた。基本的にはこの場で、と思っている。代表者の皆様からまちづくり協議会の会議等でお話をいただくことは差し支えない。
- ク 青少年育成市民会議だけでなく、自治会がまちづくり協議会の活動に参加しているか、自治会の連合体に加入しているかどうかも各地域で違っており、市民の要望や意見を市にま

とめて挙げにくい。我々もどうにかしないといけないが、市として「当事者」というのをどのように捉えられているのか。

- ケ (総務部) 関係団体という意味では様々なまとまりがある。自治会連合会と自治会ネットワーク会議に対しても、今月中に市長から説明する予定である。
- コ 自治会連合会に市長が説明に来ていただくのは大変歓迎であり、ありがたいと思っている。自治会連合会では自治会の会員数が減少しており対策を打とうとしている。強い自治会連合会を作っていくために、まちづくり協議会とも連携してやっていこうとしている。宝塚市は組織がいくつか分かれているが、一丸となってやっていこうとしている。市としてご指導よろしくお願ひしたい。
- サ 財政改革について、60 数億円は寄附でいただいたもので、病院の分について市の負担が減ったということだが、今回提案されているものをトータルすると約 1 億円の削減である。宝塚市は昨年に比べて税収が約 9 億円減っており、これはとても珍しい。これには何か原因があると思う。また、人事院勧告で人件費が 7 億 3 千万円くらい増加しており、174 億円かかっている。宝塚市特有の扶助費というものが 284 億円で、この 2 つで税金がなくなっている。細かいものを改革していくことも大事だが、もう少し根幹的なものを改革してほしい。
- シ (市長) この資料は、皆さんが当事者と思われる事業だけ抜粋して載せているが、実際は扶助費等の見直しについても検討を進めている。扶助費に関しては、それぞれの事業当事者がいるので、現在、各当事者と話し合っている。ここでは皆さんが当事者であると考えたものをご説明させていただいて、11 月の市民と市長の対話ひろばで全体像をお見せするため、ご理解いただきたい。
- ス 蔵人共同浴場（ほっこり湯）について、施設の老朽化や経営状況についてお聞きしてそこは良く理解できるが、蔵人共同浴場は宝塚市で唯一の浴場であり、30 年前の阪神淡路大震災では前身のわかくさ湯のときに大きな役割を果たした。宝塚の銭湯文化がなくなっていくのではないか。近隣の浴場に援助をしている自治体もあると聞いたが、宝塚市として、蔵人共同浴場をなくしたら新しく造らないといけないのでと思う。宝塚市の共同浴場をゼロにするのではなく、別の違う方法はないのかお聞きしたい。
- セ (市長) ほっこり湯は単なる共同浴場ではなく、コミュニティの様々な人のつながりをつくる場にもなっていて、とても大事なものだと思っている。宝塚市は温泉のまちでもあり、温泉と銭湯は違うものではあるが、その価値みたいなものは感じている。様々な意見をお聞きして整理して検討していきたいが、現状代替案があるわけではなく、今のところ蔵人共同浴場（ほっこり湯）については、現状を考えると廃止せざるを得ないと考えている。
- ソ 地域として、自治会の加入率が 40 % を切っていて悩んでいる。加入率を伸ばすためのアイデアを何かいただけないか。市民が協働で、宝塚市をよりよくするためにつながって、みんなが活躍できるような場があればいいのかと考えるが、何かいいアイデアはないか。
- タ (市長) 自治会は公的な組織ではないため、難しいかもしれないが、市民が地域を愛していたり、地域の助けあいを感じ取ってもらうことで自治会や PTA の参加率が増えていくと考える。市民と市長の対話ひろばで、市と市民一人ひとりの距離を近づけていこうと思っているし、まちづくり協議会ごとの活動も応援している。地域の皆さんと市でやっている

ことを近づけていくことで、宝塚においてよかったですと、自分の住んでいる地域の自治会や地域の助け合いの大切さを感じ取ってもらえるのかと思う。すぐに自治会の加入率を上げることは難しいかもしれないが、市として地道に地域とつながっていくように進めていこうと考えている。

- チ　自治会に入らなくても生活できると若い方は思われるかもしれないが、こちら側に少しでも心を向けてもらえばと思う。

また、学校応援団について、発足当時から在籍しているが、園芸ボランティア、図書ボランティア、学校応援団に一律で3万円支給すると聞いている。地域によって、ボランティア団体がなかつたり、活動していなかつたりするため、1校につき一律で3万円支給するのではなく、活発な団体は多めに支給するなど調整はできないのか。

- ツ　（市長）おっしゃることはよくわかるが、青少年育成市民会議は残したい地域は残すこともできるが、公平性の面で補助金はなくなる。地域によって、補助金を出しているところとそうでないところがあるのは良くないと思っている。そのため、違う形で地域の活動を支援していきたいと考えている。

- テ　今の話の中で、地域の様々な団体への補助をまとめたらどうかと思う。というのは、学校応援団や地域の団体で活動が重複しているところもあると思うため、地域全体でまとめて支援するという形をとれば、効率的ではないか。補助金があるから何かに使わないといけないと考える人もおり、そのあたりの経費についても気になっている。

- ト　（市長）統一していくとすれば、まちづくり協議会単位というのが中心になるのではないかと感じているものの、地域ごとに実情が異なるし、整理しなければならないことが多い。自治会や自治会の連合体が活性化してもらうことも大切であるし、また公的な組織とボランティア組織とは建付けも異なるため、その難しさもある。

- ナ　先程おっしゃったように、歴史の中で先にできたものが既存のものとして特権をもってやっているが、時代とともに変えなくてはいけないなら、そういったことも見直しながらどうあるべきかというのを市で考えてほしい。この組織があるから、あの組織があるからではなく、今あるものでどのようにやっていくかについてぜひリーダーシップを發揮して進めていただきたい。

- ニ　公共交通に関しては地域差があって、バスやタクシーがいらないところもあれば必要なところもあると思う。うちのまちづくり協議会では地域の交通システムの今後の課題について考えている。国レベルでいうと公共交通機関が少ない地域を対象としたような様々な取り組みがあり、宝塚市でも障害者を対象としたものがある。朝夕の通勤通学に必要なバスなどの公共交通については継続していいと思うが、乗客の少ない日中のバスの運行は、駅から放射線状に行き来するのではなく、医療施設や介護施設を巡回するように行き来するシステムを考えていただくなど、早急に将来的なことを見据えた取り組みを考えていただきたい。

また、学校応援団をやっていて、小学校の先生の仕事量はとてもないと感じている。

昔、高校教諭をしていたが、その当時より10倍は仕事量があると思う。人的な確保をしていかないといけない。今は財政的なことを整理されているが、できるだけ早い段階で子どもたちを取り巻く教育環境をよりよくできるような施策をしてほしい。

- ヌ　（市長）公共交通に関しては、おっしゃる通り宝塚市は非常に山手が多く、宝塚市特有の

課題でもあると思う。バス・タクシー運賃助成は現金給付の話で別ではあるが、今後も公共交通については、横断的な枠組みをつくりつつ新しい公共交通の流れを見据えながら、しっかりと取り組んでいきたい。

学校教育についてもおっしゃる通りで、学校の先生の働く環境は喫緊の課題と認識している。しかし単に労働時間を減らすだけでなく、子どもたちの学びについても改善していく方向で考えていきたい。大事な課題として意見をいただいたので、しっかりと検討していく。

- ネ コストセーブという観点から説明いただいた。経済改革、財政改革ではよく配分についての話を聞くが、配分については既にやられているのか。
- ノ (市長) いくつも水面下で動き始めている。現時点で皆様にお話しできるものは少ないと同時並行で進めている。現在の財政状況を考えると、配分も大事だがどちらかというと減らしていかなければならない。重きとしてはコストセーブの方が大きいのではないかと考えている。おそらく市民と市長の対話ひろばでは一定お話しできるものが出てくると思っている。例えば、病院を中心とするたからづかモデルで、単なる病院ではなく医療や福祉、介護、保険でもネットワークを組んでいく。
- ハ 配分についても話がまとまれば、お話を聞かせてほしい。
- ヒ 昔から道路脇の草が1メートル程伸びており道路管理課にも草刈りをお願いしているが、予算がなく1年に1回しかできない。その1回というのも11月、12月にやるため、5月、6月になると草が伸びて11月までそのままになる。それが通学路のそばであり、場合によっては歩道にまで伸びて子どもたちは歩くのも怖い。加えて、マムシやアライグマもいて危険である。草刈りする場所が増えて予算がないとのことだが、住民が増えて税収も増えてくるはずなので、草刈りの予算を増やしてどうにか年に2回実施してくれないか。
- フ (市長) 草刈りに限らずインフラの整備は非常に厳しい状況にあり、どこまで公平性を保ってできるかは市全体を見据えていかないといけないが、頭に置いて検討していく。
- ヘ 仁川にはコミュニティ循環バスがあるものの、特に仁川台の便は乗客数が少ない。バス・タクシーの助成金について話があったが循環バスについてどうお考えか。2年前に都市計画道路を建設する関係で、循環バスの経路が変更されるとともに減便にもなって利用しづらくなった。何のためにバスを走らせているのかを考えると、地域にとって何が必要なのかを考えて、バスに変わる事業も検討していくべきではないか。
- ホ (市長) 阪急バスを運行するために市からかなり補助している。地域の皆さんにとって、とても重要な交通手段だと認識しているが、多くの人に利用していただかないと赤字が増えてしまう。今ある路線を頻回にというご希望であれば、地域の皆さんにも協力いただいて、たくさん乗っていただくことが大切。市と連携して盛り上げてほしい。問題意識としては市としても共有している。
- マ 中山台ニュータウンの再生事業でパナソニックホームズ株式会社はモビリティと教育が大事だといっている。パナソニックホームズ株式会社は教育機関やモビリティ関係の企業と連携してやっていこうとしている。今後決まっていったら代表者交流会の場で報告させていただく。
- ミ 高齢者バス・タクシー運賃助成について、ある程度は受け入れていかないと

うが、当事者の人たちがこの話を聞いたときに思うことがあつたり、詳しく説明してほしかつたりと意見があると思うため、当事者への説明を丁寧にしてほしい。また、廃止を検討中とのことだが、廃止が決まる時期というのは具体的に決まっているのか。

ム (市長) 当事者への説明の機会はできるだけ設けるつもりで、意見をお聞きする機会ももちろん設けていく。今後は自治会の連合体や老人クラブ連合会にもお話する。対話ひろばでも取り上げるし、広報たからづかにも記事を載せたいと考えている。もしこれが廃止となつた場合、今回ご提示している事業は今年中に方向性を示すものと決めているので、今年中に判断する。その場合、次年度から進めていくことになる。

(2) 市広報板無償譲渡にかかる意向調査の結果

広報課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

- ア 所属するまちづくり協議会内で説明するときに必要なため、モニターに映しているデータを送ってほしい。
- イ (広報課) 承知した。今回はご質問いただいたものを市の回答として明記させていただいたもので、一部抜粋してご説明させていただいている。
- ウ この資料は自治会にも同時に配るのか。前回もまちづくり協議会と自治会に同時に配っていて、整合性が取れず、数も多かつたため自治会に任せた。
- エ (広報課) 自治会連合会理事会でもご説明させていただいた後、全自治会に資料を郵送する。各自治会で意向をご回答いただければと思う。意向が被っていた場合は、こちらで調整の連絡を個別にさせていただく。
- オ 235基の広報板を自治会が管理するのかまちづくり協議会が管理するのかわからない。両方に話していると、それぞれで意見が食い違うのではないか。各団体で申請すればいいのか、まちづくり協議会が取りまとめたらいいのかわからない。
- カ (広報課) おっしゃる通りだと思う。こちらとしては、まちづくり協議会の区域にある広報板について譲渡を希望されるかどうかご回答いただけたらと思う。希望が被っている場合は、回答集約後にこちらから希望が重複している旨を各団体に連絡して、調整させていただく。
- キ お互いに連絡を取り合っているところならいいが、連絡を取り合っていないところもあって、そういう地域はややこしくなる。自治会とまちづくり協議会それぞれで回答してくださいとなると、広報板をどの自治会で管理しているのかまちづくり協議会の会長はわからない。自治会とまちづくり協議会の仕組みは地域によって様々であるため、ややこしくなるという話である。
- ク (市長) まちづくり協議会が譲渡してほしいとのことであれば、どの広報板かご回答いただき、自治会は自治会で譲渡を希望する広報板を回答してほしい。もし希望が重なってしまえば、こちらで調整する。譲渡してほしいという団体が手を挙げるという仕組みである。
- ケ まちづくり協議会に説明してもらったが、自治会連合会にも同じように説明してほしい。
- コ (市長) わかった。
- サ 広報板を撤去する理由は非常にわかる。市広報板はA4のチラシを24枚貼ることができ

て、うちのまちづくり協議会は市の管理で駅前の2基を残してほしいと回答している。駅前の広報板はいつもスペースがないが、どのようなチラシが貼られているかというと、地道に活動されている諸団体の市が後援している活動のポスターである。このポスターを広報たからづかに載せられるかというと、数が多くてとてもじゃないが載せることができない。特に10月、11月、12月というのは非常に活動が活発で、市民アンケート調査の結果が広報板に興味のある市民の割合が1.8%とあったが、広報板を見て、まつりに来てくれる実態がある。必要不可欠な広報板は必ずある。阪急宝塚駅やJR宝塚駅などの駅前くらいは市の管理で市広報板として残すべき。市の管理は十数基で済むし、残りの広報板は自治会やまちづくり協議会に譲渡して、アクセントをつけてやっていくべき。デジタル化した広報も毎日見ているが、瞬時に見るだけでじっくり読めない。広報板の使い方は必要不可欠なところもあるので、そこはお願いしたい。また、宝塚市の広報板は他市に比べて非常に面積が大きく、管理が大変だったと思う。ゆくゆくは面積をどう考えるかも一つの手段だと思う。

シ うちのまちづくり協議会は、逆瀬川の駅前と小林の駅前の広報板については残してほしいと思っており、ほかは撤去でもいいかと思っている。まちづくり協議会として、広報板の譲渡を希望するところがどれくらいあるのか知りたい。うちは譲渡を希望しないと回答した。

ス (広報課) まちづくり協議会から譲渡を希望すると回答していただいているのは、4団体で26基である。自治会で回答しているからまちづくり協議会では回答していないところもあると思う。

セ 費用の件で、広報板を移設したいというのはどれなのか。

ソ (広報課) 意向調査で、移設のご希望を3基ほど承っている。必ず対応できるかという返答は予算の関係で現時点では難しく、まずは修繕から対応させていただき、予算が余れば移設の対応をさせていただきたいと考えている。

タ 予算がなくなれば、移設を希望する団体が費用を負担して移設してほしいということか。

チ (広報課) そのようになる。

ツ うちのまちづくり協議会は、区域内に20基ある広報板全てを譲り受けて、まちづくり協議会で管理する。なぜなら、タイムリーに情報を知ってもらうには広報板しかないと思う。我々でかつて広報板を持とうと計画したときに、当時70万円くらいかかるところで、今は100万円くらいだと思う。それほど立派な広報板を有効活用しようと思う。アンケートで1.8%の利用率とあるが、広報板を使って見てもらえるようにPRしたことはあるのか。我々は、広報板に掲示するから見てくださいとPRして有効活用していく。20基の広報板の内8基は錆びていて、2基は板が腐敗しているため、それは修繕していただきたいと思っている。「宝塚市広報板」というプレートの文字を取っていただきたい。

テ (広報課) 修繕については、ボードの部分は当初シートの部分の張替えで考えていたが、かなり老朽化が進んでおり表面上はきれいでも、めくると腐敗しているというのが昨今増えてきている。ちょっとしたものについては、ボードを修繕したうえで譲渡させていただく。また、プレートについても「宝塚市広報板」は撤去して、譲渡先の団体の名称を印字して譲渡させていただく。公のものを譲渡するのに、権利上そのようにしなければならないので、適切な形にして譲渡したい。錆びについては、よほど軽体に影響がなければその

ままお渡しさせていただくことになると思う。

- ト まちづくり協議会で活動していて、地域の情報を届けるために今やっているのが、掲示と自治会への回覧と LINE である。自治会に入っていない人に情報を届けようと思ったら、掲示か LINE しかない。まちづくり協議会の LINE アカウントの登録者は少なくて、もっとデジタルの活用をしていきたいと考えている。市の LINE アカウントの登録者数は現在どれくらいいるのか。
- ナ (広報課) 現在、2万5000人弱登録いただいている。
- ニ 今は受信設定ができるので、地域のセグメントをつくって尚且つまちづくり協議会からの情報を地域のセグメントを設定している人に発信できれば、もうちょっと情報を届けられるかと思うが、そのあたりはどうか。
- ヌ (広報課) LINE の機能としてはセグメント配信の機能があり、まちづくり協議会ごとに設定することは機能的には可能である。あとは運用問題などで、検討の余地があると思う。

2. 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和7年度・第5回）議事概要の確認

各まちづくり協議会代表者により、上記議事概要の確認が行われ、ホームページへ公開することが承認された。

3. 地域ごとのまちづくり計画

- (1) 「推進」及び「対話シート」の状況報告

市民協働推進課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

4. 市民協働推進課からのお知らせ

- (1) 「歩いて行ける小さな花火大会」企画・運営の舞台裏 情報共有会（10/17）開催のお知らせ（壳布小学校区まちづくり協議会）

市民協働推進課より、標記について、説明があった。

- (2) 「市民と市長の対話ひろば（行財政改革について）」の開催について（市民相談課）

市民協働推進課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

- (3) 第21回宝塚ハーフマラソン大会の従事ボランティアの依頼について（スポーツ振興課）

スポーツ振興課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア 資料の「8 協力」ところに、まちづくり協議会がない。

イ (スポーツ振興課) 申し訳ない。チラシには宝塚市内20のまちづくり協議会と記載しているが、第21回宝塚ハーフマラソン大会事業計画についての資料は記載が漏れていた。

ウ ボランティア募集のスケジュールを教えてほしい。

エ (スポーツ振興課) 10月中旬ごろには、メール等で発信する予定である。その後の予定としては11月7日（金）までにご回答いただいて、11月29日（土）に午前午後のどちらかでボランティア説明会を開催させていただくので、ボランティアに初めて参加される方や久しぶりに参加される方は来ていただけたらと思う。

オ 昨年とほぼ同じような動きになるのか。

- カ (スポーツ振興課) 昨年度は宝塚歌劇が 110 周年ということで、大会当日は公演があったため、1 時間前倒しで 9 時 15 分に発走したが、今年度については、例年通り 10 時 15 分発走である。
- キ スケジュールの件で、自治会で集まるのは大体月初めか月末である。ボランティア募集でエントリーするときにこの締切日だと短い。来年度以降は、もう少し早く出してもらえると周知がしやすい。
- ク (スポーツ振興課) 来年度以降の参考にさせていただく。

5. 社会福祉協議会からのお知らせ

社会福祉協議会より、(1)～(2)について、配布資料に基づいて説明があった。

- (1) 「ちから たくわえ中 N04」について
(2) 「令和 7 年度 年末年始 地域ささえ愛活動助成」について

6. 宝塚 NPO センターからのお知らせ

- (1) Canva 講座開催のお知らせ

宝塚 NPO センターより、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

7. その他

8. 今後の日程

市民協働推進課より、配布資料に基づき、今後の予定について周知があった。